

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス	開設学科		管理栄養学科/食品開発科学科		
科目名称	哲学					授業形態	講義		
科目コード	110420	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	長友 泰潤							ICT活 用	
授業概要	入門編として「哲学」とは何かという問いを出発点に、哲学発祥の地の一つである古代ギリシャと周辺地域の古代文明との関わりや哲学者たちの思想と時代背景について説明していく。入門編にふさわしく、理解しやすい哲学思想を取り上げ、哲学の基本的な考え方や基本用語についても分かりやすく解説する。								
関連する科目	倫理学、心理学を受講することが望ましい。								
授業の進め方 と方法	学生が積極的に授業参加できるように、グループ学習のシステムを導入し、学生がギリシャの哲学者の中から一人選び、その思想や時代背景等について、図書館やインターネット情報で資料研究を行い、それをまとめて、パワーポイントにより発表を行う。その発表について、他の学生も参加し、質疑応答を行っていく。終了後の補足説明は教員が行う。								
授業計画 【第1回】	哲学が古代ギリシャにどうして生まれたかについて、時代背景をもとにわかりやすく説明する。								
授業計画 【第2回】	学生がグループを作り、図書館やあるいは情報処理室、Wi-Fiの使える場所で、書籍やインターネット情報を用いて、どの哲学者をテーマとするか研究調査する。								
授業計画 【第3回】	上記の結果をもとに、テーマを絞り込んでいくと同時に、情報処理室やWi-Fiの使える場所でパワーポイントでのスライド作成の準備を開始する。								
授業計画 【第4回】	それぞれのグループが選んだテーマが重ならないように調整し、引き続き、情報処理室やWi-Fiの使える場所でパワーポイントでのスライド作成を行う。								
授業計画 【第5回】	イオニア学派（タレス・アナクシマン드로ス・アナクシメネス）について、担当グループが発表し、内容についての質疑応答を行う。								
授業計画 【第6回】	ピュタゴラス学派について、担当グループが発表し、内容についての質疑応答を行う。								
授業計画 【第7回】	ヘラクレイトスについて、担当グループが発表し、内容についての質疑応答を行う。								
授業計画 【第8回】	エレア学派について、担当グループが発表し、内容についての質疑応答を行う。								
授業計画 【第9回】	多元論者について、担当グループが発表し、内容についての質疑応答を行う。								
授業計画 【第10回】	古代原子論について、担当グループが発表し、内容についての質疑応答を行う。								
授業計画 【第11回】	ソフィストについて、担当グループが発表し、内容についての質疑応答を行う。								

授業計画【第12回】	ソクラテスについて、担当グループが発表し、内容についての質疑応答を行う。
授業計画【第13回】	プラトンについて、担当グループが発表し、内容についての質疑応答を行う。
授業計画【第14回】	アリストテレスについて、担当グループが発表し、内容についての質疑応答を行う。
授業計画【第15回】	各グループの発表した内容に基づいて、総括する。
授業の到達目標	1. 哲学発祥の地であるギリシャと古代文明との関わりや、哲学者たちの思想と人物像、時代背景について理解する。 2. 哲学の基本的な用語について理解を深める。
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	1. プレゼンテーションとパワーポイント作成の準備のため、図書館で関連書物を検索読書し、必要な情報を集める。(60分程度) 2. インターネット情報を活用し、関連する情報・資料を収集し、検討を行う。(30分程度) 3. スライド作成作業を続けながら、プレゼンテーションの内容を充実させていく。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	1. 他のグループの行ったプレゼンテーションの問題点を検討する。(60分程度) 2. その検討をもとに、自分たちのプレゼンテーションへのフィードバックを行う。(30分程度)
課題に対するフィードバック	各グループの発表後、その質疑応答の内容に基づいて、解説と評価を行う。
評価方法・基準	1. プレゼンテーションのスライド内容・・・・・・・・25点 2. プレゼンテーションのやりかた、質疑応答への対応・・・・・・・・25点 3. 質疑応答への参加度(質問回数・答弁回数等)・・・・・・・・50点
テキスト	必要に応じて資料等を配布する。
参考書	必要に応じて資料等を配布する。
備考	